
[巻頭言]

ごあいさつ

敬愛大学総合地域研究所長

織井啓介

敬愛大学総合地域研究所の2023年度所報をお届け申し上げます。

2020年に始まりましたいわゆるコロナ禍は、今年度初め(2023年5月)には感染法上の位置づけが2類相当から5類に引き下げられ、長かったパンデミックがいったん収束を迎えました。大学の研究教育活動そして当研究所の研究活動もようやく正常化の緒に就くことができました。今後順次ギアアップしてまいりたいと存じます。

本号では巻頭に恒例の年次シンポジウムの様子を収録いたしました。当研究所は地元千葉県が150周年を迎えたことを機に、「千葉県150年：発展の軌跡と展望および課題～大学に求められる役割～」と題したシンポジウムを開催いたしました。県庁・メディア・研究機関など、県を代表する機関の皆様方にシンポジストとしてご参加いただき、本県の発展の歩みを振り返り、なお解決を要する課題について議論しつつ、大学の在り方をご討論いただきました。当日の議論の様子を本号に収録いたしましたので、ご参照いただければ幸いです。

本研究所の共同研究といたしまして、経済学部経営学科の新コース(地域・起業コース)のスタートを機に、アントレプレナーシップおよびコーポレートガバナンスに関する共同研究が実施されました。事例研究を本号に収録いたしております。また本学は引き続きSDGs(持続可能な開発目標)に関する研究教育に積極的に取り組んでおりますが、その一環としてユネスコ(国際連合教育科学文化機関)の松浦晃一郎元事務局長にご講演をいただきました。講演録を本号に収録いたしております。そのほか、今年度は前年秋にChatGPTが公開されたことを受けて生成AIが急速にクローズアップしてまいりました年でもございました。大学教育における生成AIの活用法についての研究成果も収録いたしました。

本学はお陰様で2024年3月に新校舎(1号館)の竣工を迎えることができました。さらに2026年には本学が属する千葉敬愛学園が創立100周年を迎えます。100周年に向けてさらに有意義な研究態勢を整えてまいり所存でございます。皆様の温かいご理解とご支援を切にお願い申し上げます。